町立図書館 町史だより

西原を駆け抜けた馬車軌道

今から九十五年前の一九一四年（大正三）、現在の与那原町から西原町小那覇の区間に沖縄初の馬車軌道（左絵参照）が開通し、二年後に沖縄市泡瀬まで運行されました。馬が客車を運ぶこのシステムは、時速六㎞で村々を駆け抜け、終着駅までは約三時間で到着しました。

与那原ー泡瀬間を走っていた馬車軌道
（『写真集　ふるさと泡瀬』より転載）

当初は、サトウキビを西原の製糖工場へ運ぶトロッコが敷設される計画でしたが、それでは製糖期以外では使われないため、人員輸送も含めて運行が始まりました。

西原には我謝、小那覇、仲伊保に駅がありましたが、停留所でなくとも手を挙げて乗ってくる乗客がいたといいます。馬車軌道が生活に与えた影響は大きく、沖縄市や与那原、那覇との経済活動も活発になり、小那覇の街道沿いには商店街が形成され、大いに賑わいました。

沖縄戦が間近に迫ると、馬は軍に徴用され、鉄道は壕の支柱に転用されていきました。戦後の苦しい時期に売られた軌道も多く、西原を駆け抜けた馬車軌道は、先輩方の記憶のなかにのみ残ることとなりました。

【参考文献】
加藤芳英『図説・沖縄の鉄道』一九八六年

町史編集係では、西原関係資料の収集を行っています。みなさまのお宅に眠っている資料がございましたら、西原町立図書館までご連絡下さい。